



静岡県

わあ  
わあ

No.23

ねっとわあく  
No.23

◎◎◎  
大(特)集

ひとひと  
男と女のバランスシート

— 男女共同参画型社会をめざして —

●特集

『あざれあ』トーク・セッション……………4

●パートタイマーって何なの？

「働いている」という意識ありますか？……………6

ウォッチング・正社員とパートタイマー……………7

●男と女の21世紀セミナー エッセイスト 村瀬 春樹さん

台所にみた男と女ー21世紀型家族のあり方……………8

●静岡県の市町村女性議員に聞きました。

力強くネットワークづくりを……………10

●街角ズームアップ

近未来に愛をこめて (富士市)……………11

時代を生きる女性 (袋井市女性セミナー)……………11

●ぐるーぶねっと

初倉生活学校 (島田市)……………12

●本だな

編集員の選んだお薦めの本……………13

●私、あなたの見方です。

静岡県の女性に関する相談機関……………14

●編集員のつぶやき

表紙の言葉……………15

ひと ひと  
男と女のバランスシート

— 男女共同参画型社会をめざして —

仕事を持つ女性の割合が五割を超え、女性の社会参加は、ごく「日常的」なこととなってきました。

男と女が、平等に**役割分担**し、共調して生きていける社会——それが理想です。現状はどうでしょうか。

仕事を持つ女性の大半は**パートタイマー**です。

**家庭に支障のない程度に近所で短時間**で働きたいと考える女性が多いようです。そこには、

「**男は仕事・女は家庭**」という古い固定観念がないでしょうか。

「パートだから」「女だから」

「一日中拘束されるのは嫌」といった

「気持ち」が低賃金、安易な首切りなどの悪い労働条件を

許していないでしょうか。私たちの中の「パートは正社員とは別」

という思い込みが、平等な社会づくりへの足をひっぱっているのかもしれない。

職場から帰っても、**家庭での仕事の負担が大きいのは、やはり女性**。

家事も育児も仕事も「ちゃんとやろう」と頑張り過ぎていませんか。

**家庭の悩みを全部自分で背負い込んで**いませんか。

男と女が平等なら、家庭内の仕事も平等であっていいはずなのに

「男は仕事・女は家庭」という固定観念に、自分自身を縛りつけてしまう——

男は女の協力者であって

共同者まではいかないのが現状です。

**男と女のバランスシートを職場から家庭から**

**地域活動の場**から、さまざまな角度で考えてみましょう。

# 『あざれあ』トーク・セッション

## 「男女共同参画型社会の実現に向けて」

平成五年五月静岡県女性総合センター「あざれあ」がオープン。女性の自主的・積極的な活動や社会的自立を支援し、二十一世紀に向けて男女が共に築き、共に担う社会の実現を目指す拠点として、ひとりでも多くの皆さまに活用されることを願ひ、「あざれあ」の未来像をテーマに、今後の運営や役割について話し合っていました。発言は、紙面の都合により一部のみ収録いたしました。



### 視野は広くグローバルに 考え方はグローバルに 行動はローカルに

●林(司会) 日ごろ、ご活躍の中で、それぞれのお立場から「あざれあ」の運営について一言お願いいたします。

●横井 情報の発信源の場と考えると、外部のニーズにどう応えるかが今後の課題だと思います。拡散の方法としてブックレットの発行などを考えたら良いと思います。また、男性は生活の場でのネットワークづくりは、女性に比べて無関心です。ですから、男性の視点も考慮して個人でかかわることができるようなものも必要です。

●錦織 全国各地に女性総合センターが建てられています。静岡県らしさをどういうところだにだしていかか今後の課題だと思います。市町村の事業と重複しないことも大切です。また、個人がどう参加するか、人と人、国と国など、国際交流を通してグローバルな視点を持つ交流の場になってほしいと思います。考え方はグローバル、行動はローカルに、つまり、ローカル(グローバル+ローカル)の視点が大事だと思います。膝を交えて話し合いができる施

#### 出席者

- 横井 孝 女性総合センター懇話会会長  
静岡大学教育学部助教
- 錦織淑子 静岡県婦人問題推進会議会長  
国際婦人教育振興会静岡県支部長
- 山本伸晴 フレッシュアップランすおか推進懇話会副会長  
常葉学園短期大学教授
- 林(司会) 静岡県女性総合センター所長

設になってほしいですね。  
●山本 一九九一年はバブルがはじけ、環境問題への関心が高まる中、人々が自分自身、そして生活を見直しはじめてきました。今、人々の志向は、物の豊かさから心の豊かさへと移ってきています。自分にとって本当に価値のあるものは何かをセンターにきて探ることができれば良いと思います。

#### 現状を変えるには発想の転換を

- 山本 これからの施設は複合施設にメリットがある。誰もがちょっと寄れるような感覚が大切です。単発の施設は関係のある人しか来ない。ほんのこの意味での「ふれあい」が必要です。
- 錦織 その点「あざれあ」には何の目的がなくても寄れるロビーがあります。そこでは、ちょっとした会合もできます。
- 山本 わざわざ寄って利用することは、不特定多数の人には現実的には考えられませんね。
- 横井 お二人の考え方に、少し共感し、少し疑問を感じるものがありますね。グループの中に個人が入っていけないという現状。しかし、個人参加の必要性は重大です。複合施設は経済的負担も大きい。今後は、センター及び婦人行政推進庁内連絡会議構成20課で行う事業を一体化させていくことにより、複合施設と同じレベルにしていくことが大切ですね。
- 山本 結婚とは、お互いが育てあっていくも

のだと思います。夫婦でこのセンターに来て、人として生きていくための工夫づけのヒントをみつけることができれば最高ですね。

### 男性も生き生きメンスサタデー

●錦織 男性のセミナーを今年度から初めて行っていますが、反応はどうですか。

●林 女性の社会参加や生き方の変化に理解を示す男性を啓発する講座、「メンス・サタデーセミナー」を作りました。講義終了ごとに数多くの前向きな意見や質問が出されるなど、受講者の自分の生き方について真剣に考えている様子が見られました。



錦織 淑子さん

●錦織 いま男性たちの中にも地位や肩書きを離れた新しい仲間づくりや、意識の変革が起こりつつあります。

その意味で、このセミナーを継続することは意義がありますね。

●林 真の平等は、女性が肩肘をはたして、男性に切り込むものではなく、性別にとられないで、自分なりの生き方をみつけることが必要です。このセミナーでは、十一月二十日には、女性たちと一緒にディスカッションする機会を設けました。どんな話し合いになるか、今から楽しみです。

●山本 そういつくチャンスが今までなかったですね。料理実習も女性と一緒にやってみてはどうですか。

●林 一緒にすると、男性がポケットに手を入れてしまつてやらなくなりませんか。(笑い)

●横井 男の一人からいうと、それはイベント

だからできると思います。日常生活の中で男性が台所に立つ機会が増えるように、この講座が継続性をもつてできるようにしたいですね。

### これからの「あざれあ」に期待するもの

●林 センターの果たす役割は、啓発が中心になると思いますが、個人への発信は難しい。そのため、センターを積極的に利用していただくため「センター交流会」を作りました。センターへの期待について、具体事例をお聞かせいただければと思います。

●山本 県は市町村と連携して県民に問題提起する立場でもあると思います。全市町村を対象に、同じテーマの事業を行つてもらい、「あざれあ」でその成果を発表するような企画をぜひやってほしいですね。



山本 伸晴さん

●横井 それが出来たらおもしろいですね。

●錦織 それも一つの方向でしょうね。

●山本 豊かで平和な男女平等社会を実現することをめざす活動の拠点として、女性問題に関する情報提供、自己開発、自主活動の援助・相談・研究・調査の機能を多に発揮してほしいですね。



横井 孝さん

●横井 二十世紀初めに生きた人々は、九十年後の今をどう予想したでしょうか。センターにおいて、この九十年間の歴史だけでも正当に分析することが、二十一世紀は子供にとって何が幸せか? “男と女は一体どうしたらよいか?”一つの展望を持つことにつながるのではないのでしょうか。

●錦織 女性問題は教育、労働、福祉等広い分野にかかわるものだと思います。そのため、婦人課が女性行政の総合的な企画と各部との連絡調整を担当するようになって、センターで総合的に展開できるようにしてもらいたいと思いますね。

●林 「あざれあ」は女性や男性が既成の観念にとらわれずに、人間として生き生きと行動していくためのステージとも言えると思います。今後、「あざれあ」がさわやかな風の中で花開くように、皆様方からいただいたご意見をこれから計画を推進する上で検討させていただきたいと思ひます。今日はどうもありがとうございました。



林 のぶさん